

平成 23 年度 現地研修会を開催

1. 研修日程及び概要

「北海道の豊かな自然の活用と地域の活性化」というテーマで先進的な取組みを行っている道北地域の各施設を見学し、各講師の方から説明を受けた。

(1)日時：2011年(平成23年)7月29日(金)

9:00～17:30

(2)場所および講師

①上川農業試験場

研究部 生産環境グループ 東岱 孝司氏

②サフォークランド士別「世界のめん羊館」

③下川町森林組合

加工部長 柏田 文彦氏

加工課長 武田 茂樹氏

2. 上川農業試験場

上川農業試験場は平成22年4月に22の道立試験研究機関とともに地方独立行政法人北海道総合研究機構に統合されたが、これまでに「きらら397」、「ほしのゆめ」、「ゆめぴりか」、「きたゆきもち」など多くの水稻優良品種を育成し、栽培技術の改良を続け北方農業の安定化に貢献してきた。現在の研究体制は①水稻グループ②生産環境グループ③地域技術グループと3つに区分され、それぞれ水稻品種の改良(育種)、栽培技術の開発や病害虫の防除技術、畑作園芸などに関する試験研究を行っている。

本研修会では生産環境グループの試験ほ場を中心に施設を見学し、研究課題や成果についての説明を受けた。近年では減化学肥料、減農薬によるクリーン農業に関する試験研究などにも取り組んでおり、殺虫剤使用回数を低減し、積極的に有機肥料を使用する団体を「Yes! Clean」認証する制度を後援して

いる。具体的には、いもち病に対する抵抗性や斑点米の出現頻度は品種によって異なるため、ランクに応じた最適防除回数を設定したり、また水稻と小麦の病害虫の発生状況を調査し、その結果を北海道病害虫防除所を通じて生産者に情報提供している。

またシストセンチュウと言えばジャガイモが有名だが、豆類につくダイズシストセンチュウに対する抵抗性の研究も行っている。余談ではあるがダイズシストセンチュウに関する記録は大正期頃からあり、ダイズシストセンチュウは在来種でジャガイモシストセンチュウは外来種である可能性が高いという興味深い話題提供もあった。



3. サフォークランド士別「世界のめん羊館」

世界のめん羊館は雄大な自然の「羊と雲の丘」の中にあり、世界各国30種60頭もの羊が飼育され、士別市の観光名所である。施設を見学した後、昼食にジンギスカン定食をおいしくいただいた。



4. 下川町森林組合

下川町森林組合は森林所有者である組合員から構成された協同組合組織で、森林の手入れやそこから産出した木材の流通販売のみならず、木材に付加価値をつけて販売する加工事業も手がけている。集成材の加工では付加価値加工への転換を図ってきており、近年では乾式の防虫防腐処理装置を導入し、集成材の防腐土台の生産等も行っている。また間伐材利用促進対策として木炭事業も進めており、木酢液、くん煙材、オガコの炭化など新たな用途開発にも取り組んでいる。海外産品との価格競争が激化する中で現在では大手ホームセンターに納める主力商品もあるが、販路を確保する上での苦労話が興味深かった。

また下川森林組合はFSC森林認証を取得し、地域で行ってきた森林管理を世界の基準に照らし合わせて見直し、地域の森林の豊かさを高めることを目指してきた。加えて、生産過程で廃棄物を全く排出しないゼロエミッションを採用し、森林資源のすべてを有効利用している。例えば、木炭を製造するときに発生する煙には木酢液が蒸発して含まれているため、それを冷却・分離・蒸留して木酢液を回収し、さらに残った排煙で木材を燻すことにより木材の防腐効果を高めるくん煙材を製造するのに利用してい

る。このように木材を極限まで利用することがすべての製造過程で徹底されており、ゼロエミッションシステムを確立している。持続的発展が可能な社会の構築を図り、循環型社会を目指していくためにも下川町森林組合の取り組みは、多くの示唆を与えてくれると感じた。



5. おわりに

例年、本会では地域の活性化や地域資源の活用等様々な分野において先進的な取り組みを行っている施設等を見学し現地研修会を開催しています。今年の研修会も地域の活性化を考える上で参考となる事例が多く参加者からも好評でした。

最後に、研修会にご協力頂いた講師の方々にお礼を申し上げ、ご報告とします。